

ひらかた☆ 学校図書館ニュース

枚方市立中央図書館
学校図書館支援グループ 電話050-7105-8103

学校図書館の活用において — 新たなステージへ

この夏休みで、市立64全小中学校の学校図書館の環境整備が終了しました。教職員と学校司書、図書館職員が協力しながら、古いラベルを3段ラベルに貼り替え、日本十進分類法（NDC）に基づいて、O類から9類、E（絵本）、小学校はF（日本の物語）、N（外国の物語）・・・と本を並べ替えました。

これにより、学校図書館システムで検索したときに、探したい本がすぐに探せるようになりました。また、同じ作者やテーマ、関連した本をキーワード検索で探すことで、今まで気づかなかった本にも出会い、興味関心を広げ知識を深めることが期待できます。

学校図書館の環境整備は、ラベルを貼り替え、きれいに並べ替えることが最終目的ではありません。本を手にとって読んでもらえることが一番です。そのためには、元の場所に返すことはもちろん、古い本を除籍し、新しい本を購入し、ときには本の位置をずらしたり、使いやすいようにレイアウトを見直すことで活きた学校図書館になっていきます。

子どもたちや教職員が気軽にどんどん活用できる身近な学校図書館になりますように。



本を並べ替える先生
蹠躰東小学校 春日小学校



教職員向けオリエンテーション
蹠躰西小学校

蹠躰西小学校では、図書館の本を並べ替えた後、2学期を前に教職員向けの研修がありました。まず先生がラベルの意味や本の並び方を知り、図書館の時間に子どもたちに説明し、児童集会では図書委員が全校児童に話しました。

研修では、中学校区の学校司書がオリエンテーションの目的、日本十進分類法に沿った本の並び、ラベルの見方等について話した後、司書教諭と一緒に学校図書館システム（教職員用端末）をテレビ画面に拡大して説明しました。「貸出・返却」をはじめ、「貸出一覧」「資料検索」のしかた等「ふだん困っていることや知りたいことがわかった」という声もありました。

調べ学習の教材（4年生国語）をもとに — 学校司書研修をしました

今年度の4年生国語の教科書に「わたしの研究レポート」という教材があります。

子どもたちが自分で調べたいことがらを決め「本で調べて報告する文章を書こう」という学習課題に対して、学校司書が先生の授業をどんなふうに支援できるかを考えるために、7月の学校司書連絡会で研修を行いました。

学校司書は、どういう立ち位置で、何を準備して、授業でどうサポートするのか先生との打ち合わせの時間が必要です。日々忙しい先生に、授業の流れや学校司書への希望をどう聞くか、子どもたちが調べたいことがわかる本を用意するために、子どもたちにどんなふうに聞くかをロールプレイを通して考えてみました。さらに、実際に、学校司書同士相談しながら、調べたい事柄がわかる本を探した後、ふり返しを行いました。

学校司書は、先生や子どもたちから依頼があると、何とかその思いに応えようと本を探します。また、よりの確かな資料を準備するためにも、先生の授業の進め方やねらいを把握することが大切だと考えています。先生と打ち合わせを丁寧にする事で、学校司書は子どもたちの成長につながる資料の提供や授業支援をしていきたいと願っています。



グループ交流のようす



「子どもが調べたいことが載っているかなあ」
本を見比べながら、複数の資料を探しています

小学校で 本が元の場所に返せない・・・ — こんな工夫をされている学校があります

- 1 図書館利用のオリエンテーション
学校司書や司書教諭、担任が、図書館の時間や図書委員会で、本の並び方のルールや場所、本の借り方や返し方、図書館の決まり等の話をする。
- 2 図書委員の活躍
返却の場所がわからなくなった本を置く場所（ブックトラックや箱）を決めておく。図書委員が本来の場所に返す。
- 3 全校集会でPR
図書委員長や図書委員が、全校集会や放送で読書週間の催し、本をたくさん読んだ人のランキングの発表、本の扱い方や返し方、面ぞろえ（背表紙をそろえる）等の話をする。
- 4 授業の終わりにみんなで書架整理
担当場所を決めて、本をそろえながら、違うところにあった本は元の場所にもどす。